

敵の政治攻勢、反革命弾圧に対し、

共産主義の政治の貫徹と武装斗争で

もって 確實に反裏を開始せよ

↑「組織」破防法攻裏を全人民的武装反裏でもって断乎粉砕せよ!

どもに対し我々は人民武装の原則を断乎堅持し、大同団
結し、その作風を創出してゆかねばならない。
5月中旬、兵庫県での爆弾実験と称して次々と3名の
兄弟達を逮捕された。

現在、敵権力(日帝又ルジョアジー)が我々の唯一
の非合法軍事組織に連合赤軍、R.G.K.に対してかけてき
ている才一級の「爆取」攻裏、「殺人罪」攻裏の反革
命性を徹底して暴露し、そして、あの「浅間山荘」銃
撃戦に向けられた権力の破防法攻裏が、まさしく我々
革命武装勢力総体に対する徹底的弾圧であることを深
く認識し、我々はこれに対し、全人民的武装に革命武
装勢力の総反裏をもって、断乎粉砕しなければならぬ

昨年12・27クライフル銃の窃盗容疑で全日指名手配さ
れている野澤同志をなくま、女疑いより犯人蔵匿で逮
捕された木山同志は、1・8の起訴后まもなく、1・21
に放火未遂、凶器準備集合の別件(昨年6・4アメリカ
総領事館に火炎ビンが投げ込まれた事件)で再逮捕され
た。これは后でゆ々々、女、このことであるが、彼は起訴后も
不当な取り調べを受けていたのである。
権力は、彼に対して昨年10月に放火未遂、兇器の件で逮
捕状を要請し、それを出ていなくも拘捕せず、「他にど何
なあるに違いない。」という全く不当な見込み捜査の下
に彼に対して24時間の密着尾行、張り込みを続けていた
のである。権力は家族攻裏をも開始し、彼が自供と転
向を迫ったが、彼は勾留理由明示裁判の場で「断乎↑
↑」と我々に決意表明を行った。それに対し権力は、
保釈日決定してこれに拘捕せず保釈取消し請求を行使
し、それを承認されるといふ司法権力と一体となつた弾
圧をかけてきた。

又、この「組織」破防法攻裏が正しく、革命武装勢
力を人民と完全に分断し、孤立せしめ、組織的壊滅を
目的とする敵の意図は明らかである。

昨年未以来、権力とマル・コミの一体となつた、「
超過派系」テロリスト集団「のフレームアツ」は、
その度を増してきている。それは、商業誌紙等をフ
ルに動員して革命武装勢力の完全圧殺・組織壊滅をも
くろみ、爆弾製造・実験、軍事訓練等のデッチ上げに
よる全くデタラメな見込捜査(ローラー作戦)、見込
み逮捕を行なつてきている。それは、この奥田でも
かりロコツなものとなっている。

我々は、これら権力・商業誌紙による武装斗争の矮
小化、人民の分断策動に抗し、武装斗争と人民武装の
正当性を宣伝し、この凶悪怖し、狂暴化の一途を歩
む敵の动向との関連の中で、我々の最大の敵に日帝又
ルジョアジーに察権力と、又それに追隨する商業
誌紙、自警団、防犯協会、不動産屋などと、その下司
臣の輪を着々と振掛けてきた。我々はこの弾圧に対してい

その後も権力は見込捜査と不当な取り調べを続ける一
方、自供と転向を強要してきたのである。それは「六
甲山系で軍事訓練」というフレームアツをマスコミな
らで事実化し、権力はそのフレームアツを糊塗するた
めに桐嶋のつぐ桐嶋を加え、桐嶋は目星をつけ友人向
の周辺部の一人、一人に分断と孤立と沈黙を強いるた
めにロコツに具体的に加えられるのだから、それによって弾
圧は、自警団、防犯協会、不動産屋などと、その下司
臣の輪を着々と振掛けてきた。我々はこの弾圧に対してい

昨年未以来、権力とマル・コミの一体となつた、「
超過派系」テロリスト集団「のフレームアツ」は、
その度を増してきている。それは、商業誌紙等をフ
ルに動員して革命武装勢力の完全圧殺・組織壊滅をも
くろみ、爆弾製造・実験、軍事訓練等のデッチ上げに
よる全くデタラメな見込捜査(ローラー作戦)、見込
み逮捕を行なつてきている。それは、この奥田でも
かりロコツなものとなっている。

我々は、これら権力・商業誌紙による武装斗争の矮
小化、人民の分断策動に抗し、武装斗争と人民武装の
正当性を宣伝し、この凶悪怖し、狂暴化の一途を歩
む敵の动向との関連の中で、我々の最大の敵に日帝又
ルジョアジーに察権力と、又それに追隨する商業
誌紙、自警団、防犯協会、不動産屋などと、その下司
臣の輪を着々と振掛けてきた。我々はこの弾圧に対してい

作戦の革命の向題として、革命の中の病気の徹底した治療の向題として、共産主義的政治の向題として提起し、この病気を直すことを、但人の向題にだけおしどめをすることをせず、組織全体の向題、革命兵士全体の向題として提起することが必要なのである。

そして、我々は今一度あの米子十兵士の立派な完熟の学ぼうではないか。

3 狂乱の反革命に對し、

人民の戦争を大胆に展開せよ！

— 軍事路線は革命戦争を勝利に導くため、正しい戦略・戦術をなければならぬ。それは人民戦争の戦略・戦術であり、その具体的な運用が人民戦争の軍事芸術である。又、人民戦争の軍事芸術は党の革命的な戦略・戦術から出発しなければならぬ。

さういふ軍事芸術は革命性、戦争の政治性から出発するとともに、敵、味方、戦場の特殊性から出発しなければならぬ。それは、女が戦いをいかに指導し進ませるなということではなく、政治性・革命性をその起点とし、あらゆる状況をも計算しられて、勝利を勝ちとる、即ち「革命武装斗争の人民性を深刻化したもの。」でなくてはならぬ。— (ボー・グエン・ガッス)

「いかなる軍事路線も、それを表現する政治路線いなくならぬ。」

権力— マスコミは一体となって「超過激派— 殺人集団のフレイムアップ」より、革命武装勢力と人民の分断策動を推進しているが、我々はこの敵の政治攻勢に對し、それを上回る我々の共産主義的政治宣伝を組織し、先ず、敵の政治の貫徹は阻止線をはらねばならない。敵は必ず自口のマルジョアジの立場から出発するのだが、我々は必ず全世界のマルシタリア— トの普遍的利益の立場から出発しなければならぬ。それが共産主義だからだ。それはリアルに、生き抜く世界革命戦争の現実と結びあわされて提起されなければならない。

現在、その反革命としてこの母国に姿を隠し暴行

を繰り返す権力— 日帝マルジョアジは、階級斗争— 革命武装斗争の偉大なる進軍に恐怖し、その穴をまな政治的態度でまっご、非常事態を宣言し、「極左暴力取締本部」を設置し、爆弾テロ壊滅作戦と称して、の急進四派を中心に過激活動家の行動監視、情報収集。②アジト摘発のためのローラー作戦。③活動家、爆弾などの武器の移動防止のための検問。④政府機関など重要施設、要人宅の警戒整備。を軸とする方針を打ち出している。

今までの不当な検問や、法という彼らの規範を無視した傍若無人ぶりでのアムート、ロッカーなどの捜査をささぐり大規模に拡大再生産してゆこうとされており、こうして市民社会は増々戦場となり、人民が敵の捜査に巻き込まれ、反感が形成される要素は拡大する。我々は一刻も早く革命内部の病気を直し、増々慎重に行動し、敵は松空さへ戦場とされ、増々恐怖として日々を送らざるを得なくなる。この中で我々は真の地下軍建設と真の労働者党建設を成し遂げようではないか。

世界革命戦争に聖地はない

あらゆる所は世界革命戦争と世界反革命戦争の戦場である。あらゆる人民は、この戦場の外に、どこか聖地をもち、そこに責任を負うことはできない。そこにあるのは「勝利を死な」だけである。我々は、未熟な故に「つきまとう病気を一つ一つ直して、この「勝利を死な」の戦争の中で、共産主義兵士としての人格をみがきあげ、世界赤軍兵として戦場にあらはしようではないか！

4.28 沖縄斗争——沖縄「返還」協定粉砕 自衛隊沖縄派兵阻止

〈関西もっぶる社アピール〉

全ての労働者、学生、市民の皆さん、
我が関西もっぶる社は、連合赤軍の斗争を提起し、諸
々の向題を共有する者として、こゝに自己批判と決意
表明をしたいと思います。

同志諸君！

ハレスチナの重信房子同志はこういつている。「隊伍
を整えなさい。隊伍とは仲間でありませぬ。仲間
ない隊伍がうまくゆくはずなかりではありません」
連合赤軍のあの銃撃戦と内ゲバリーリンチ殺人は、ま
さしく表裏一体の向題であり、けっして分割して銃
撃戦支持、内ゲバリーリンチ殺人反対という事で片づけ
られるべき向題ではない。あの内ゲバリーリンチ殺人
ことは正しく、60年代、我々新左翼諸潮流の蒼白と限界
、即ち小ヌル急進空気の表われ以外の何ものでござら
ない。

赤軍派が一方に於る武装斗争のけん引を大胆に
図ってきたことは、当時の状況ながら、又共産主義
者として断乎支持すべきである。しかしながら、
あの内ゲバリーリンチ殺人はまさに我々武装斗争派の主
体的存続の反映として決定的であるが故に、又どう
いった傾向を踏えなければ貫徹できなかつた武装斗争
の虞、即ち、赤軍派—連合赤軍を先頭としたこの3年
間の我々の階級斗争の切り出しの地平そのものの限界
として確認する必要がある。

同志諸君！

上野同志の指摘する様にこの向題についてのアヌロ
ーチクは、一つは整凡向題として、他方もう一つは
ゲリラー一元論批判として確認を要す。これら2路線
向題へと導つめていくことにより我々は、連合赤軍と
共有していた決定的誤りを正すことのできるであらう
。

我々は全ての同志諸君と共に我々の内部に於る
論争と向題を一切かき解明し、内部のウミを徹底
的に流し出す長い痛苦に満ちた作業に出発しようでは
ないか！

尚、現在敵権力が我々の唯一の非法軍事組織であ
る連合赤軍、及び対こをわけてきておるわー級の「

爆取」攻撃、「殺人罪」攻撃の反革命性を徹底して暴口
し、そしてあの「浅間山荘」銃撃戦に向けておれおれ力の
破防法攻撃を革命武装勢力総体に対する徹底的弾圧であ
ることを深く認識し、我々はこれに対し、全人民的武装
斗争をもって断固粉砕しなければならぬ。又この「
組組」破防法攻撃が正しく、革命武装勢力を人民と分断し
、孤立せしめ、組織的壊滅をもちよる意図であること
を全く見抜けず、無自覚にも、利敵行為に等しい政治的態
度を武装斗争反対、無政府主義粉砕として公然と表わし
ている革マル派を筆頭とする軍事反対派ソビエト主義者
のみならず日和見主義を我々は断乎として粉砕しなければ
ならぬ。

我々、関西もっぶる社は、69年以降本格的に展開して
きた武装斗争に対する支援運動の総括を提起し、もっぶ
る日本革命戦争の大道を切り拓く勇ましい「組組」破防法
体制下の階級斗争の一翼を担いける決意をこゝに明かす
。

同志諸君！

今、まさに日帝ヌルジョアジールは米・日「韓」
台反革命体制の再編、強化の要として、5・15
自衛隊沖縄派兵を強行し、そしてアジア再侵略をなす崩
壊的謀略をこきまわす。しかしながら、この日帝ヌル
ジョアジールの野望は我々革命武装勢力への未曾有の革命
命運をゆきまわすことは成し遂げられずすれば、我々は
この下史的攻防に断乎勝利せねばならぬ。そして、
革命戦争の礎を著々と打ち固め、幾多の赤軍战士の血の
教訓を継承し、世界赤軍兵士として戦場におもむこうで
はないか。

革命戦争の機関誌

査証

(VI SA)

2号 各大学生協
全国書店
にて発売中

遊芸戦争時代の
開幕と連日赤軍
塩尻孝也・上野勝輝
穂積右一・若宮正他

350円

3号 近日発売